



代表取締役社長 藤井 様



経営企画部長 林 様

講話内容

- ・ 地域企業における DX の取組
- ・ 企業の紹介（講師のキャリア、社歴、製品開発内容、業務につながる科目等）
- ・ ソフトウェアの可能性 など

学生のワークシートから抜粋

【わかった企業情報等】

- ・ ソフトウェアの開発・販売を行う。昭和 61 年ベンチャー企業として始めた会社。
- ・ 最初は仕事がなく神頼み⇒お寺へ⇒過去帳のソフトウェアの開発
- ・ 保険点数計算システムを開発。薬品の在庫管理や保険請求などもできる。上田市は 1974 年に医薬分離のモデル都市になった。
- ・ ゲームのソフトウェアの開発もしている。
- ・ 課題はシステム開発者の高齢化、システム対応が多いこと、ソースコードの複雑化。
- ・ ソフトウェア開発者に求められるもの

基本的な知識、世の中の様々な製品を知る、世の中の流れに敏感にベストな最適解を考える力、あらゆる仕組みを駆使する、世の中を便利にする気持ち

- ・ ソフトウェア開発には「開発技術」にプラスして「アイデア」と「人とのつながり」が必要。
- ・ 5 教科はしっかりやっておくべき。特に数学。

【気づいたこと・学んだこと等】

- ・ ソフトウェアは、パソコンで無の状態から、形をつくっていくことができるということを知って、これから、どんどん成長していくのではないかと考えた。
- ・ 「ソフトウェアの世界は無限である」と言っていたが確かにそのとおり。この先必要とされる産業であるが、それを動作させるハードウェア の話も聞いてみたい。
- ・ 私もプログラミング関係の仕事が気になっているので今回の講座でしっかりとパソコンに対しての知識もそうだが、数学などの基本的な知識も必要ということがわかりま

した。

- ・ソフトウェア開発者だけに限られることではないけれど、基礎的な知識というものは凄く大事だということが分かった。
- ・ロボットを利用するという事は、ただ機械でできることをまかせるだけでなく、もともとロボットの場所にいた人をどう使うかもしっかり考える必要があると思った。
- ・システムがその人にあった薬を選んでもくれるのはすごいと思った。
- ・ゲームか特定のソフトではなく、さまざまなソフトウェアを開発しているのと、社名の由来が軽くて良いと思った。
- ・医療関係者の役に立ったり、好きなことに打ち込んだり、やりがいのある仕事を見つけていることがすごいと思った。
- ・最初が3人だった会社が、今では薬局のソフトウェアやゲームの開発販売をしているのがすごいと思った。
- ・ソフトウェア(ゲーム)を作ってみたいと思っていたので実際に作っている人の話を聞くことができよかったです。
- ・自分も自分の好きなものや、気になったものに挑戦してみたいと思った。
- ・まだ一般家庭にパソコンが普及していなかった頃に、ソフトウェアの開発を行おうと立ち上がれることは、すごいことだと思った。自分も挑戦するときは、思い切ってやってみることを意識したい。
- ・大手以外でゲーム開発をしている会社が意外と近くにある、ということを知ってびっくりした。
- ・以前からゲームソフトを作ってみたいと思っていたので、再び熱が入った。作っているゲームソフトのクオリティが高くて感動した。
- ・進路に迷っているが、この講座をきいて、自分の選択肢が広がったと思った。